【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第３区分
【発行日】平成21年11月26日(2009.11.26)

【公開番号】特開2008-274092(P2008-274092A)
【公開日】平成20年11月13日(2008.11.13)
【年通号数】公開・登録公報2008-045
【出願番号】特願2007-118889(P2007-118889)
【国際特許分類】
Ｃ０８Ｇ　18/42　(2006.01)
Ｆ１６Ｆ　15/02　(2006.01)
Ｃ０８Ｇ 101/00　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｃ０８Ｇ　18/42　F
Ｆ１６Ｆ　15/02　Q
Ｃ０８Ｇ 101:00

【手続補正書】
【提出日】平成21年10月5日(2009.10.5)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１０
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１０】
前記植物由来ポリオール（Ａ）は、特に制限があるわけではないが、ひまし油および／またはその誘導体、あるいは大豆油誘導体であることが好ましい。
前記植物由来ポリオール（Ａ）は、１分子当り２～６個の水酸基を有する多価アルコールに、植物油から得られる炭素数１５以上のヒドロキシカルボン酸を縮合した構造を少なくとも有する植物由来ポリエステルポリオール（Ａ１）、該植物由来ポリエステルポリオール（Ａ１）にさらにラクトンを付加したポリオール（Ａ２）、および該植物由来ポリエステルポリオール（Ａ１）にさらに一級ヒドロキシル基を有するヒドロキシカルボン酸を付加したポリオール（Ａ３）からなる群から選ばれた１種以上の植物由来ポリオールであることが好ましい。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００５０
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００５０】
炭素原子数１～２０のカルボン酸としては、たとえば、蟻酸、酢酸、プロピオン酸、イソ酪酸、ラウリン酸、ステアリン酸、オレイン酸、フェニル酢酸、ジヒドロ桂皮酸またはシクロヘキサンカルボン酸、安息香酸、パラメチル安息香酸または２－カルボキシヒドロナフタレン酸等が挙げられる。２～６個のカルボキシル基を有する炭素原子数２～２０の多価カルボン酸類としては、たとえば、蓚酸、マロン酸、コハク酸、マレイン酸、フマル酸、アジピン酸、イタコン酸、ブタンテトラカルボン酸、フタル酸、イソフタル酸、テレフタル酸、トリメリット酸またはピロメリット酸等が挙げられる。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００５７

【補正方法】変更
【補正の内容】
【００５７】
炭素原子数２～２０の脂肪族または芳香族二級アミン類としては、たとえば、ジメチルアミン、メチルエチルアミン、ジエチルアミン、ジノルマルプロピルアミン、エチルノルマルブチルアミン、メチル－ｓｅｃ－ブチルアミン、ジペンチルアミン、ジシクロヘキシルアミン、Ｎ－メチルアニリン、ジフェニルアミン等が挙げられる。
【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００６４
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００６４】
これらのアルキレンオキサイド化合物のうち、エチレンオキサイド、プロピレンオキサイド、１，２－ブチレンオキサイドまたはスチレンオキサイドが好ましく、エチレンオキサイド、プロピレンオキサイドが更に好ましい。これらは１種単独で、または２種以上を併用して用いることができる。２種以上を併用する場合には、エチレンオキサイドが含まれることが好ましく、アルキレンオキサイド中のエチレンオキサイドの比率は５～３０質量％とすることが好ましい。